

# 営農情報

## 水稻の品質・登熟を高める水管理

出穂後30日頃（9月上旬）までは玄米肥大が旺盛な時期であり、間断灌水や飽水管理をきめ細かに行い、根の活力維持を図りましょう。

落水時期の目安は、普通田で出穂後30日、排水不良田で25日、砂質系で保水性の劣る田では35日程度であるが、落水時期はできる限り遅らせ、平坦部「はえぬき」で8月末から9月初め頃、「つや姫」では9月上旬頃までは落水を行わず、土壤水分を十分に保持しましょう。

## 適期刈取りで高品質米の収穫！

品質の高い良食味米に仕上げるには、適期収穫がポイントです。

刈取り適期の目安は、青籾歩合や枝梗の黄化、籾水分（25%以下）を考慮し判断してください。

刈始めの青籾歩合は、「はえぬき」、「雪若丸」は20%、「つや姫」、「あきたこまち」、「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」は15%残った状態が目安です。

籾が全部黄色になると、穂の先の籾が刈り遅れになることがありますので**注意**しましょう。

早く刈ると青米、未熟粒、やせ米が多くなり、水分過多になりやすくなります。

⇒品質と収量が低下。乾燥経費（燃料費）の増大。

遅く刈ると胴割米、穂発芽、茶米等が増加し、過乾燥も起きやすくなります。

⇒品質、等級、食味が大幅に低下。

## 米出荷支援対策について

今年度も当JAでは（株）ジェイエイトんどうフーズと下記により出荷奨励措置を講じてまいります。

支援1 JAへの売渡しが500俵以上 1俵あたり200円を助成します。

支援2 JA出荷率70%を超えた俵数に対して1俵あたり200円を助成します。

支援3 フレコンバッグでの出荷の場合1俵あたり50円を助成します。

支援4 良食味米（食味値80以上）の出荷俵数に対して1俵あたり500円を助成し

ます。

(但し、**対象品種**は、「はえぬき」「ひとめぼれ」「コシヒカリ」の主食用うるち玄米とする)

※JA 米検査室食味計使用による、計測値で判定したものとします。

是非、JA への米出荷をご検討下さい。

## 果樹の基肥

果樹の基肥は、根が活動している9月から10月に施用し、地温が下がる前に養分を根に吸収させましょう。有機質主体の緩効性肥料を用いる場合は、分解されて根から吸収されるまでの期間が化成肥料より長いので、9月中に施用してください。特にさくらんぼの基肥は、7～8月に施用した方が次年度の果実品質が良くなることから、これから施用する場合は、できるだけ早めに行ってください。